第1号　2017年1月

群馬大学医学部附属病院

群大病院だより

GUNDAI NEWSLETTER

〒371-8511 群馬県前橋市昭和町三丁目39-15／TEL 027-220-7111㈹／ホームページ http://hospital.med.gunma-u.ac.jp/

「群大病院だより」創刊号発刊にあたって

病院長　田村　遵一

群大病院だより創刊

群大病院では、現在、ホームページを通して、本院の取り組みや医療安全管理体制などの情報を発信しております。このような情報を、院内の患者さんやご家族の方をはじめ、多くの方々に気軽に手にとってご覧いただきたいと、この度「群大病院だより」を発刊することとなりました。本紙では、本院の改革への取り組みや今後の計画を中心に、本県の医療レベル向上のための情報や、みなさまに役立つ情報も提供していきます。本院の考えなども発信していく予定です。多くの方に本院を知っていただき、ご評価いただきたい、声やアイデアを聞かせていただきたいと思っております。

安全な医療を提供するために

現在、最も力を入れているのは、安全対策です。同時に医療事故の分析も慎重に進めております。自分たちで背景を点検したところ、社会的な必要性に応えられていない面があると考えています。その結果を生かし、患者さん・ご家族の方の要望を的確に把握し、ご期待に応えていきます。その中で特に大切にしたいのは、患者さん・ご家族の方との、人間対人間の心の通い合ったお付き合いです。患者さんお一人お一人の体と心の状態を把握しながら、患者さんに寄り添い、安心安全な医療提供に努めていきます。

その取り組みの一つとして、国際レベルの医療安全を取り入れていきます。外国の医療安全が進んだ先進的な大学で研修を行う予定です。また、群大はWHO（世界保健機関）とチーム医療教育を行っているご縁があります。WHOとの人事交流や、専門家による講演会もできそうなので、職員一丸となって頑張っていきます。

数年後には「群大病院は日本の医療安全をリードしている」と言われるくらいにしたいと考えています。

地域との協働

医療は行政との連携も重要です。これから社会構造が変化していくので、今までどおりにはいきません。大学と県や県医師会で、地域の医療を効率的に行うために連携しようと話をしています。それぞれが各自の役割を果たし、医療システムの先進県としたい。県民の皆様にご迷惑をおかけした反省を踏まえて、良い地域にするため全力で貢献します。

患者さん⇔本院の架け橋に

ご批判とともに多くのご提案をいただきました。その提案はほぼ実行し、機能しているか実証している段階です。結果を発表し、改革されたと評価されるように努力したい。それも含めてご意見をいただきたいと思っています。

「群大病院だより」が患者さん・ご家族の方・一般の方々と本院をつなぐ架け橋となり、一緒に理想の医療機関・これからの群大病院をつくっていけることを祈念し、発刊のご挨拶とさせていただきます。

もくじ

■「群大病院だより」創刊号発刊にあたって …… 1ページ
■皆さまから信頼される病院の再生へ向けた取り組みについて …… 2・3ページ
■患者さんの声 …… 4ページ
■募集のお知らせ …… 4ページ
■公開講座・イベント情報 …… 4ページ

皆さまから信頼される病院の再生へ向けた取り組みについて

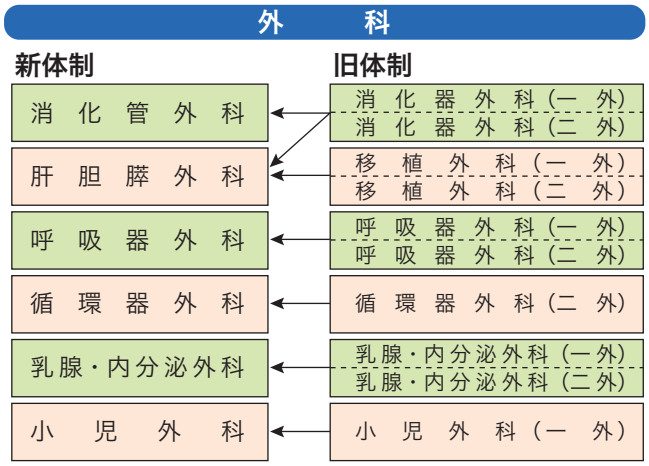
腹腔鏡手術等の医療事故が判明した平成26年6月以降、皆さまからのご心配の声やご指摘をいただき、様々な改善や改革に取り組んできました。また、第三者による医療事故調査委員会からの報告書や再発防止に向けた提言、病院改革委員会からの最終提言等を受け、群大病院が安全安心な病院として再生するために、これまで実施してまいりました改革への取り組みの一部を紹介します。

診療体制の再構築

①旧第二外科の肝胆膵外科の診療領域は、極めて少数の医師に診療がまかされており、腹腔鏡等の高難度手術や術後の加療を行うには、診療科としての体制が不十分であったという問題、②旧第一外科と旧第二外科が同じ外科領域の診療を独自に行っていたため人材が分散し、合併症や死亡事例に対する合同での検討や再発防止に向けた適切な対策が取られていなかったという問題が指摘されました。

この問題に対して、外科診療センター・内科診療センターを設置し、外科・内科とも各診療科に専任の診療科長を配置し、診療分野別に再編成しました。新体制では診療科長が必要スタッフ数の確保、手術件数の調整を行うとともに、チーム医療を実践する体制へ移行しました。また、各診療科のスタッフ間で問題点を共有・検討し、診療科全体で話し合って治療方針を決定することにより、安全安心な診療を提供できる体制となりました。

センター全体での合同カンファレンスを毎週実施しています



診療分野別に診療科を再編成しました（外科）

インフォームド・コンセント（十分な情報と説明を受けた上での同意）の改善

医療者が患者さん・ご家族に必要十分な情報を提供したうえで、同意をいただいて治療方針を決定することをインフォームド・コンセントと呼びますが、先の報告書では、適切なインフォームド・コンセントがなされていなかったという問題、また、医療者からの説明内容や患者さん・ご家族の方からのお返事を含んだカルテ記載が不十分であったという問題点が指摘されました。

この問題に対して、当院で行われる様々な医療行為についての説明・同意文書を大幅に改訂しました。手術・治療・検査の方法、その医療行為のもたらす効果や考えられる合併症、その医療行為以外の選択肢など、必要な事項を網羅した説明・同意文書を用いることで、患者さん・ご家族に伝えなければならない情報をわかりやすく提供できるようにしました。

また、インフォームド・コンセントの際は可能な限り看護師が同席し、患者さん・ご家族が十分に納得をしたうえで治療を受けられるように支援をいたします。さらに、各診療科における診療記録の記載方法や問題点等を確認するため、診療科相互や診療情報管理士による評価や検証を行っています。

インフォームド・コンセントでは看護師も可能な限り同席して支援をします

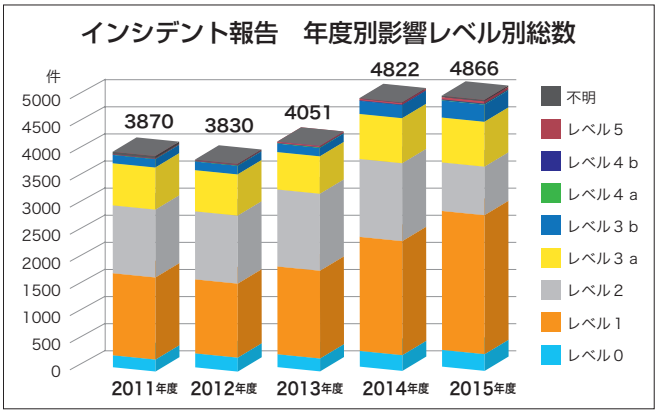
医療安全管理体制の強化

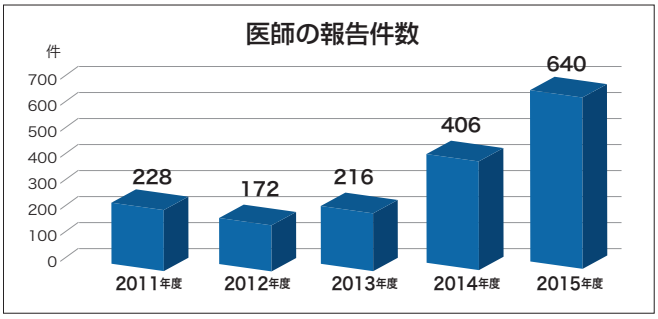
これまでもインシデント報告制度はありましたが、続いていた死亡事例が報告されておらず、病院は重大な問題として捉えることができていませんでした。インシデントとは、何か起こってしまったというエラーだけではなく、医療現場でヒヤリとしたり、ハッとした出来事を含みます。また、当院ではバリアンス報告という、医療を行う際に予想外に起きてしまった合併症などを報告する制度がありましたが、この様な死亡事例が報告されていなかったことは、十分に機能していなかったと言えます。

そこで、合併症も積極的に報告するように再度周知するとともに、バリアンス報告の基準を、例えば「想定外の大量出血」のような主観的な判断によるものではなく、「3000ml 以上の出血量」と明確にするなど、定量的・客観的な基準により判断できる内容に変更しました。

また、医療の質・安全管理部と集中治療部（ICU）や手術部などの連携を強化し、実際に診療に携わる医師や看護師から、現場で気になる点を直接医療の質・安全管理部に伝えてもらい、問題を速やかに把握できるように改善しました。見過ごされがちな問題点を医療スタッフが共有し、重大な事故等を未然に防止することで安全安心な医療を提供します。

2013 年度、全体の報告件数は、他大学と比較しても少なくはありませんでしたが、医師からの報告は5％程度でした。改善の結果、2015 年度には、全体の件数の増加とともに、合併症と考えるような出来事についての医師からの報告が大きく増えたのが大きな特徴です。





病院ガバナンスおよび組織体制の見直し

このたびの医療事故が発生した基礎には病院全体としてのガバナンス（組織の統治のあり方）に問題があったという指摘がされました。

そこで、問題事例等の病院長への速やかな報告体制を強化するとともに、病院長や幹部職員が院内の各部門へ突然訪問する病院長院内巡視を毎月実施し、各部門の実情把握と現場職員との意見交換を行うなど、風通しの良い院内環境を構築しています。

病院長主導で安全安心かつ質の高い患者中心の医療を提供すると共に、法令順守や運営のチェック体制を厳格化し、さらに風通し良く自由に意見を言える院内環境を整備することで、職員が一体となって改革を推し進めることができる病院となりました。

病院長院内巡視を定期的に行っています（薬剤部の様子）

現場職員との意見交換を行い病院が一体となって改革を進めています

今後の改革

ご指摘・ご提言いただいた事項を真摯に受け止め、その一つ一つに対して改革を実行してまいりました。現在は安全で質の高い、患者中心の医療を提供できる病院になること、また、地域の皆さまから信頼をいただける病院に生まれ変わることを目指しています。

そのために、まず群馬県の医療レベルのさらなる向上に貢献していきたいと考えています。具体的には、国際標準の安全管理体制を確立するために新講座開設や安全性の確保された先進的医療の開発体制構築のためセンターを設置するなどの取り組みを開始しています。また、これについては群馬県や群馬県医師会、県内の医療系大学や医療機関と協調・連携して、医療スタッフの人材交流や育成を行い、県域の医療ネットワークを充実させ、群大病院がその中核となって推進していきたいと考えます。

患者さんの声

<眼科の予約について>
仕事に行きたかったので８時30分に
予約しました。
しかし、呼ばれたのは予約時間より遅く、
診察終了まで時間がかかってしまいました。
こんなに時間がかかるのなら、
遅い時間に予約をすればよかったと思いました。

ご意見いただき、ありがとうございます。

これまで眼科では、できる限りご希望の時間に予約をおとりしてきました。しかし、午前の早い時間に予約が集中してしまい、結果的に待ち時間が長くなっていました。これに対して多くのご意見をいただきましたので、時間毎の予約数を制限させていただくことになりました。ご希望の時間に予約できない場合がありますが、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

眼科外来医長

看護助手募集

当院では看護助手のみなさんが活躍しています。
一緒に働きませんか。

シーツ交換をします。

患者さんへ食事を配膳します。

時給：970円
勤務：４週８休
１日６～７時間
（週 30～35 時間）
シフト勤務

看護助手について詳しく知りたい方は
看護部までお問い合せください。

★１日体験　★半日体験
★ちょこっと体験もできます。

TEL 027-220-8751
http://nurse.dept.showa.gunma-u.ac.jp

ボランティア活動を希望される方を募集しています。

ボランティアの方の温かい手助けにより、患者さんが心の安らぎを得られる環境づくりができればと考えております。皆様方のご協力をお願いいたします。

ボランティア活動には、特別な資格を持たなくても、患者さんのお役にたちたいと思っている方、人と人とのふれあいを持ちたいと思う方であれば、どなたでも参加することができます。

【活動時間】
- **平日午前８時半～午後５時の間の都合の良い時間**
- **長期できる方で週１～２日程度**

申し込み／問い合わせ
医事課 ■ Tel 027-220-7827　Fax 027-220-7832
E-mail ■ volunteer-m@jimu.gunma-u.ac.jp
直接お話しを聞きたい方は、外来棟１階総合案内までお越しください。

公開講座・イベント情報

●名称：耳の日無料相談会
●日時：平成 29 年３月５日（日）　9:30～11:00
●場所：刀城会館（群大病院・昭和キャンパス内）
●内容：耳鼻咽喉科専門医・補聴器相談医が、補聴器・人工内耳・めまい・耳鳴り・難聴などについての相談に応じます。
●問い合わせ先：日本耳鼻咽喉科学会群馬県地方部会事務局（Tel 027－220－8359）
●担当：耳鼻咽喉科
●その他：参加費無料、予約不要

●名称：第 13 回肝臓病教室
●日時：平成 29 年２月 10 日（金）　13:30 ～ 15:10
●場所：アメニティホール 小会議室（群大病院・昭和キャンパス内）
●内容：医師、看護師、管理栄養士／薬剤師の講話　約 60 分と患者さんどうしの交流の場となる患者サロン約 40 分間の予定です。
●問い合わせ先：肝疾患センター（Tel&Fax 027-220-8127）
●担当：肝疾患センター、消化器・肝臓内科
●その他：電話または Fax で申し込み、空きがあれば当日参加も可能です。参加費無料です。肝臓病教室は４ヶ月毎に開催しております。詳細は肝疾患センターＨＰをご覧ください。
http://kanzo.dept.showa.gunma-u.ac.jp/

群馬大学医学部附属病院「群大病院だより」
第１号　2017 年１月
編　集 ■ 群大病院だより編集委員会
発　行 ■ 群馬大学医学部附属病院
発行日 ■ 2017 年１月 12 日
ホームページ ■ http://hospital.med.gunma-u.ac.jp/

病院の理念	大学病院としての使命を全うし、国民の健康と生活を守る。
基本方針	安全・納得・信頼の医療を提供する。 次代を担う人間性豊かな医療人を育成する。 明日の医療を創造し、国際社会に貢献する。 医療連携を推進し、地域医療再生の拠点となる。